

令和4年度 施設分析シート

I 施設の概要		施設コード	S05-01-03		
施設名	ムーブ町屋				
所在地	荒川七丁目50番9号 センターまちや3階・4階				
部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課				
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容 (単位:千円)		
			国・都	区債	一般財源
建築	平成8年	4,970,000	0	3,470,000	1,500,000
増改築①					
増改築②					
併設施設	-				
竣工年月日			区職員	その他	
供用開始年月日	平成8年6月1日		職員数	0人	12人
構造	SRC造		階層	地上22階、地下2階の内、3・4階部分	
面積	敷地面積		3221.29m ² の一部		
	延床面積		25557.45m ² の内、2797.17m ²		
設置目的・経緯	区民文化の向上と地域のコミュニティ活動の促進を図る。				
関連部署	土木管理課、就労支援課				
根拠法令等 設置条例	荒川区ムーブ町屋条例及び条例施行規則				
駐車場の状況	1台	バリアフリー	● エレベーター	● トイレ	
駐輪場の状況	22台	対応状況	○ 点字ブロック	○ スロープ	



II 管理運営の状況

管理形態	指定管理	(株) コングレ	期間	平成30年4月1日 令和5年3月31日	から まで	
事業内容	○文化活動の実施に関する事業 ○文化活動及び地域コミュニティ活動に関する相談及び情報の提供に関する事業 ○ムーブ町屋の施設の利用に関する事業 ○その他区長が必要と認める事業					
対象者	区民及び施設利用者					
運営時間等	運営時間	午前9時～午後10時まで				
	休日	年末年始(12月29日～1月3日)及び工事、保守点検日				
施設基本データ等	総利用人数(人)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度(見込み)
	ホール年間利用者数(人)	74,027	79,467	6,920	72,444	74,000
	ギャラリー年間利用者数(人)	37,465	40,668	3,874	14,054	20,000
	ムーブホール稼働率(%)	17,907	20,812	464	19,907	30,000
	ギャラリー稼働率(%)	56	61	5	33	50
	文化、芸能のイベント数(件)	36	26	3	54	60
	文化、芸能のイベント数(件)	681	670	502	1,205	1,205
に指定管理に係る費用	指定管理料(千円)	34,030	33,074	34,643	41,349	50,059
	指定管理者の支出合計(千円)	64,959	61,880	58,520	64,705	60,689
	指定管理者の人員費(千円)	35,878	35,265	35,974	40,186	31,878
	指定管理者の利用料金収入(千円)	27,723	31,032	13,569	19,373	15,083
備考	令和3年度は前年度に比べ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための利用制限が緩和され、また感染状況の改善等に伴い、利用が増えた。					

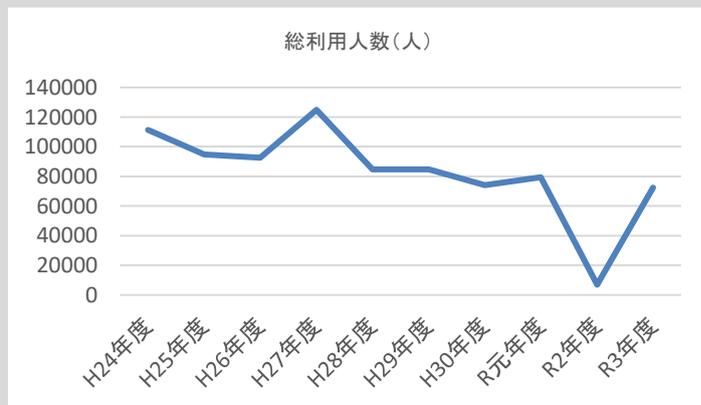
III 財務諸表

		R2年度			R3年度			差額		
行政コスト計算書	行政費用	勘定科目	R2年度	R3年度	差額	勘定科目	R2年度	R3年度	差額	
		給与関係費	0	0	0		地方税等	0	0	0
	物件費	47,531	59,628	12,097	国庫支出金	488	0	▲ 488		
	維持補修費	0	298	298	都支出金	0	0	0		
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0		
	補助費等	60,721	54,655	▲ 6,066	使用料及び手数料	0	0	0		
	減価償却費	91,001	91,001	0	その他	1,319	38	▲ 1,281		
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	1,807	38	▲ 1,769		
	賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 197,446	▲ 205,544	▲ 8,098		
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0		
	行政費用合計(b)	199,253	205,582	6,329	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 197,446	▲ 205,544	▲ 8,098		
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0			
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 197,446	▲ 205,544	▲ 8,098			
貸借対照表	流動資産	勘定科目	R2年度	R3年度	差額	勘定科目	R2年度	R3年度	差額	
		収入未済	0	0	0		流動負債	0	0	0
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0		
	その他の流動資産	0	0	0	特別区債	0	0	0		
	有形固定資産	2,612,027	2,521,026	▲ 91,001	賞与引当金	0	0	0		
	土地	1,516,648	1,516,648	0	その他の流動負債	0	0	0		
	建物	3,370,397	3,370,397	0	固定負債	0	0	0		
	建物減価償却累計額	▲ 2,275,018	▲ 2,366,019	▲ 91,001	特別区債	0	0	0		
	工作物等	0	0	0	退職給与引当金	0	0	0		
	工作物等減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0		
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	0	0	0		
建設仮勘定	2,260	2,260	0	正味財産	2,614,287	2,523,286	▲ 91,001			
その他の固定資産	0	0	0	正味財産の部合計	2,614,287	2,523,286	▲ 91,001			
資産の部合計	2,614,287	2,523,286	▲ 91,001	負債及び正味財産の部合計	2,614,287	2,523,286	▲ 91,001			
備考	物件費の主な内訳は指定管理者委託料である。物件費及び補助費等の差額は、新型コロナウイルス感染症による減収損失補填を令和3年度においては指定管理料として増額したことが主な要因である。行政収入のその他は、自動販売機電気料金である。維持補修費は、空調交換修繕費である。									

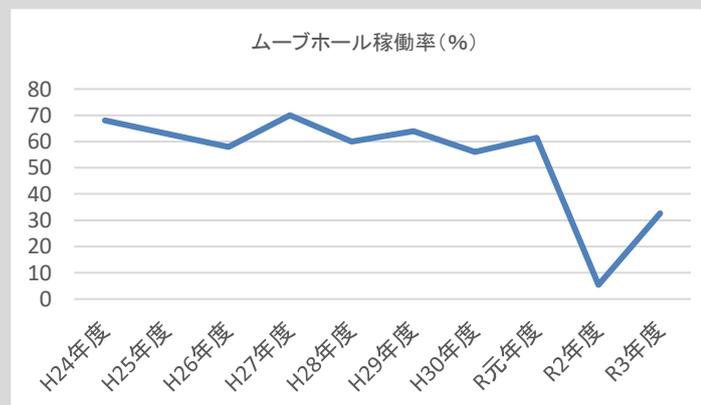
指標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	62	65	67.5	70.2	70.2
	1㎡当たりコスト(円)	65,387	69,054	71,234	68,558	68,558
	人にかかるコストの割合(指定管理)(%)	55	57.0	61.5	62.1	52.5
	受益者負担比率(%)	13	14.0	6.1	8.5	5.7
	利用者1人当たりのコスト(円)	2,471	2,431	28,794	2,838	2,778
	開館1日当たりのコスト(円)	510,891	538,042	555,022	572,652	572,652
	区民1人当たりコスト(円)	846	889	918	884	884
備考	3年度は、前年度と比較して新型コロナウイルス感染拡大の影響が落ちついたため、稼働率が上昇し、開館1日当たりのコスト、利用者1人当たりのコスト、区民1人当たりコストが前年度に比べ減少した。					

IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名:)					
目標指標	指標名・単位	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度(見込み)
	文化芸能の利用人数	目標値 32,500	32,500	5,000	20,000	80,000
		実績値 27,389	29,336	3,349	8,000	74,000
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()					
管理形態の変更の推移	● 有 (変更内容: 平成8年度:荒川区地域振興公社へ運営委託、平成18年度:指定管理者制度導入) ○ 無					
利用者・地域のニーズ	施設利用者へのきめ細やかな対応					
現状・課題	<p>○開館から23年を経て、施設全体の老朽化が目立ち始めているため、適切な保守により維持管理に努める必要がある。修繕実施にあたっては、指定管理者とセンターまちや管理組合との連絡・調整が必要である。</p> <p>○利用者から日々寄せられる多様化するニーズへの対応が求められる。</p> <p>○施設やその利用方法を広く周知し、利用者の拡大を図る。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、適宜、適切な制限等を検討・実施しながら、安全・安心に利用できる環境を整える必要がある。</p>					
課題に対する現時点での考え	<p>○関係部署や施設と調整し、町屋区民事務所の移転とあわせて今後の修繕計画を検討する。</p> <p>○利用者のニーズに柔軟に対応していけるよう、指定管理者と施設管理やサービス向上策について緊密な連携を図っていく。</p> <p>○コロナ禍にあわせた施設稼働率の向上及び利用者数の増加に向けた取り組みを指定管理者と協議し、検討していく。</p>					
議会、利用者等からの意見						



令和2年度は、緊急事態宣言による施設の休館等があったため利用人数は減少したが、令和3年度は感染状況の改善等に伴い、増加に転じた。



令和2年度は、緊急事態宣言による施設の休館等があったため稼働率は減少したが、令和3年度は感染状況の改善等に伴い、増加に転じた。

令和4年度 施設分析シート

I 施設の概要		施設コード	S05-01-01		
施設名	区民会館（サンパール荒川）				
所在地	荒川一丁目1番1号				
部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課				
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容 (単位:千円)		
			国・都	区債	一般財源
建築	昭和50年	1,950,000			
増改築①	平成4年	1,540,000	0	0	1,540,000
増改築②	平成27年	2,460,000	110,000	1,940,000	410,000
併設施設					
竣工年月日	昭和50年3月26日		区職員	その他	
供用開始年月日	昭和50年3月26日		職員数	0	37
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造		階層	地下1階、地上6階	
面積	敷地面積		4279.01㎡		
	延床面積		10044.09㎡		
設置目的・経緯	区民の文化の向上と地域のコミュニティ活動の促進を図るため				
関連部署					
根拠法令等 設置条例	荒川区民会館条例				
駐車場の状況	18台	バリアフリー	●エレベーター	●トイレ	
駐輪場の状況	111台	対応状況	●点字ブロック	●スロープ	



II 管理運営の状況

管理形態	指定管理	(株)ケイミックスパブリックビジネス	期間	平成30年4月1日 令和5年3月31日	から まで	
事業内容	○文化活動の実施に関する事業 ○文化活動及び地域コミュニティ活動に関する相談及び情報の提供に関する事業 ○会館の施設の利用に関する事業 ○その他区長が必要と認める事業					
対象者	区民及び施設利用者					
運営時間等	運営時間	午前9時から午後10時まで				
	休日	年末年始（12月29日～1月3日）及び工事、保守点検日				
施設基本データ等		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度（見込み）
	大ホール年間利用者数（人）	149,169	128,736	28,519	57,443	70,000
	小ホール年間利用者数（人）	60,189	45,743	14,747	19,002	20,000
	集会室年間利用者数（人）	73,225	64,599	19,349	83,044	90,000
	大ホール貸出稼働率（%）	61	58	24	66	70
	小ホール貸出稼働率（%）	60	57	31	56	60
	集会室貸出稼働率（%）	42	40	20	59	60
	文化芸能のイベント数	241	241	174	357	357
に指定 用係 等管理 費	指定管理料（千円）	153,263	150,563	129,498	146,132	161,540
	指定管理者の支出合計（千円）	215,090	220,378	194,594	215,871	225,620
	指定管理者の人員費（千円）	35,987	40,926	36,117	36,552	39,144
	指定管理者の利用料金収入（千円）	76,261	79,236	76,746	84,352	67,093
備考	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、施設の休館や利用制限等を実施していたため、利用が大幅に減少した。令和3年度は、感染状況を勘案しながら利用制限を徐々に緩和したこと、感染状況の改善等に伴い、利用が増えた。					

III 財務諸表

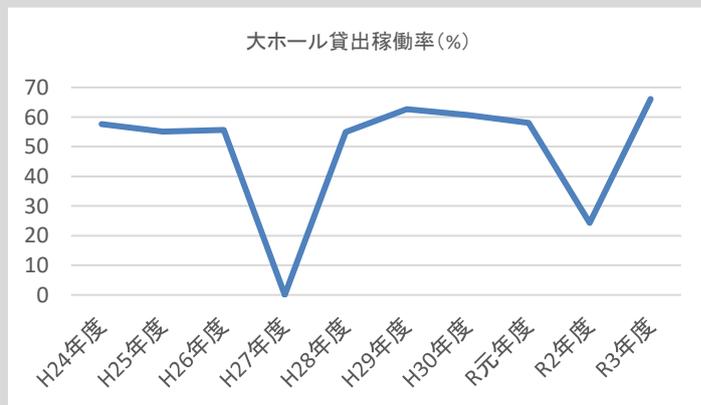
(単位:千円)

行政コスト計算書	勘定科目	R2年度	R3年度	差額	勘定科目	R2年度	R3年度	差額	
	行政費用	給与関係費	0	0	0	地方税等	0	0	0
	物件費	188,340	178,495	▲ 9,845	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	31,155	0	▲ 31,155	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	2,137	60	▲ 2,077	使用料及び手数料	484	989	505	
	減価償却費	15,930	1,258	▲ 14,672	その他	11,275	15,045	3,770	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	11,759	16,034	4,275	
	賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 227,233	▲ 163,779	63,454	
	その他行政費用	1,430	0	▲ 1,430	金融収支差額(d)	▲ 3,275	▲ 3,024	251	
	行政費用合計(b)	238,992	179,813	▲ 59,179	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 230,508	▲ 166,803	63,705	
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 230,508	▲ 166,803	63,705	
貸借対照表	勘定科目	R2年度	R3年度	差額	勘定科目	R2年度	R3年度	差額	
	流動資産	収入未済	0	0	0	流動負債	190,649	190,766	117
		不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
		その他の流動資産	0	0	0	特別区債	190,649	190,766	117
	固定資産	有形固定資産	125,538	125,538	0	賞与引当金	0	0	0
		土地	125,538	125,538	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物	1,955,347	1,955,347	0	固定負債	1,139,913	949,148	▲ 190,765
		建物減価償却累計額	▲ 1,955,347	▲ 1,955,347	0	特別区債	1,139,913	949,148	▲ 190,765
		工作物等	0	0	0	退職給与引当金	0	0	0
		工作物等減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	1,330,562	1,139,914	▲ 190,648	
	建設仮勘定	0	0	0	正味財産	▲ 1,180,772	▲ 991,381	189,391	
	その他の固定資産	24,252	22,995	▲ 1,257	正味財産の部合計	▲ 1,180,772	▲ 991,381	189,391	
	資産の部合計	149,790	148,533	▲ 1,257	負債及び正味財産の部合計	149,790	148,533	▲ 1,257	
備考	物件費の主な内訳は指定管理者委託料である。行政収入のその他は指定管理者からの利益納付金（収支差額の1/2）等であり、利用料金収入の増に伴い前年度比増となっている。								

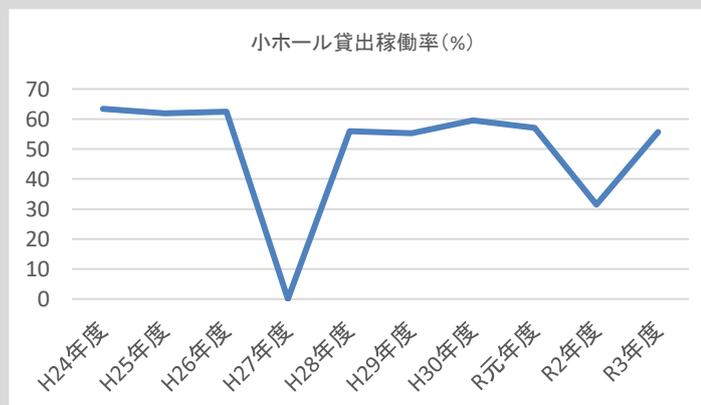
指標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	1㎡当たりコスト(円)	18,483	19,137	23,794	17,902	17,902
	人にかかるコストの割合(指定管理)(%)	16	19	19	16.9	17.3
	受益者負担比率(%)	30	30	25	33.8	27.5
	開館1日当たりコスト(円)	518,553	535,404	665,716	500,872	500,872
	利用者1人当たりコスト(円)	657	804	3,817	1,127	999
	区民1人当たりコスト(円)	859	885	1,100	828	828
備考	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により稼働率が大幅に低下したため、開館1日当たりのコスト、利用者1人当たりのコスト、区民1人当たりコストが前年度に比べ増加したが、令和3年度は稼働率の上昇に伴い減少した。					

IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名:)					
目標指標	指標名・単位	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度(見込み)
	利用人数	目標値 300,000	300,000	100,000	250,000	250,000
		実績値 282,583	239,078	62,615	159,489	180,000
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()					
管理形態の変更の推移	● 有 (変更内容: 平成2年度: 荒川区地域振興公社へ運営委託、平成18年度: 指定管理者制度導入) ○ 無					
利用者・地域のニーズ	施設利用者へのきめ細やかな対応					
現状・課題	○平成4年度(第1回)、平成27年度(第2回)に大規模改修を実施した。 ○敷地の一部が東京都市計画道路補助線街路第90号線の予定地であるため、整備後に施設運営に支障がでないよう、関係機関と調整を図る。 ○利用者から日々寄せられる多様化するニーズへの対応が求められる。 ○新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、適宜、適切な制限等を検討・実施しながら、安全・安心に利用できる環境を整える必要がある。					
課題に対する現時点での考え	○都市計画道路整備の影響が最小限となるよう関係機関に要請していく。 ○利用者ニーズに柔軟に対応できるよう、指定管理者と施設管理やサービス面上策について緊密な連携を図っていく。 ○コロナ禍に合わせた施設稼働率の向上及び利用者数の増加に向けた取り組みを指定管理者と協議し、実施していく。					
議会、利用者等からの意見	平成27年度9月会議 「荒川区民会館の長寿命化について」 令和2年度9月会議 「サンパール荒川の今後の在り方について」					



令和2年度は、緊急事態宣言による施設の休館等があったため稼働率が減少したが、令和3年度は感染状況の改善等に伴い、増加に転じた。



令和2年度は、緊急事態宣言による施設の休館等があったため稼働率が減少したが、令和3年度は感染状況の改善等に伴い、増加に転じた。

令和4年度 施設分析シート

I 施設の概要		施設コード	S05-01-02		
施設名	日暮里サニーホール				
所在地	東日暮里五丁目50番5号 ホテルラングウッド4階・5階				
部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課				
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容 (単位:千円)		
			国・都	区債	一般財源
	建築	平成元年 2,000,000	0	0	2,000,000
	増改築①				
増改築②					
併設施設	-				
竣工年月日			区職員	その他	
供用開始年月日	平成元年2月9日		職員数	0人	13人
構造	SRC造		階層	地上13階、地下3階の内、4・5階部分	
面積	敷地面積		3100.03m ² の一部		
	延床面積		23562.71m ² の内、2311.28m ²		
設置目的・経緯	区民文化の向上と地域のコミュニティ活動の促進を図る。				
関連部署	経理課				
根拠法令等 設置条例	日暮里サニーホール条例及び条例施行規則				
駐車場の状況	3台	バリアフリー	● エレベーター	● トイレ	
駐輪場の状況	無	対応状況	○ 点字ブロック	○ スロープ	



II 管理運営の状況

管理形態	指定管理	(株) コングレ	期間	平成30年4月1日 令和5年3月31日	から まで	
事業内容	○文化活動の実施に関する事業 ○文化活動及び地域コミュニティ活動に関する相談及び情報の提供に関する事業 ○サニーホールの施設の利用に関する事業 ○その他区長が必要と認める事業					
対象者	区民及び施設利用者					
運営時間等	運営時間	午前9時～午後10時まで				
	休日	年末年始(12月29日～1月3日)及び工事、保守点検日				
施設基本データ等		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度(見込み)
	総利用者数(人)	140,554	143,985	17,149	47,387	70,000
	ホール年間利用者数(人)	67,223	69,144	6,508	21,989	35,000
	サロン年間利用者数(人)	33,531	33,060	4,736	13,601	25,000
	ホール稼働率(%)	65	63	10	32	60
	サロン稼働率(%)	94	88	21	58	80
	文化、芸能のイベント件数(件)	604	512	129	656	656
に指定 用係等 管理 費	指定管理料(千円)	40,016	40,197	33,250	56,330	69,648
	指定管理者の支出合計(千円)	98,127	109,618	104,154	96,062	98,590
	指定管理者の人員費(千円)	45,347	56,452	58,962	53,292	45,126
	指定管理者の利用料金収入(千円)	56,760	57,583	28,997	33,112	69,648
備考	令和3年度は前年度に比べ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための利用制限が緩和され、また感染状況の改善等に伴い、利用が増えた。					

III 財務諸表

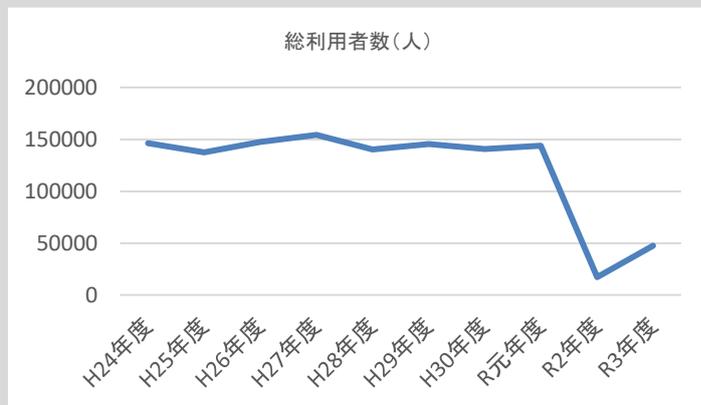
(単位:千円)

行政コスト計算書	勘定科目	R2年度	R3年度	差額	勘定科目	R2年度	R3年度	差額	
	行政費用	給与関係費	0	0	0	地方税等	0	0	0
	物件費	56,935	91,188	34,253	国庫支出金	652	0	▲ 652	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	42,011	11,869	▲ 30,142	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	36,010	36,010	0	その他	7,926	4,874	▲ 3,052	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	8,578	4,874	▲ 3,704	
	賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 126,378	▲ 134,193	▲ 7,815	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	134,956	139,067	4,111	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 126,378	▲ 134,193	▲ 7,815	
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 126,378	▲ 134,193	▲ 7,815	
貸借対照表	勘定科目	R2年度	R3年度	差額	勘定科目	R2年度	R3年度	差額	
	流動資産	収入未済	0	0	0	流動負債	0	0	0
		不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
		その他の流動資産	0	0	0	特別区債	0	0	0
	固定資産	有形固定資産	181,384	145,374	▲ 36,010	賞与引当金	0	0	0
		土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物	1,333,703	1,333,703	0	固定負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	▲ 1,152,320	▲ 1,188,330	▲ 36,010	特別区債	0	0	0
		工作物等	0	0	0	退職給与引当金	0	0	0
		工作物等減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	0	0	0	
	建設仮勘定	2,938	2,938	0	正味財産	187,322	151,312	▲ 36,010	
	その他の固定資産	3,000	3,000	0	正味財産の部合計	187,322	151,312	▲ 36,010	
	資産の部合計	187,322	151,312	▲ 36,010	負債及び正味財産の部合計	187,322	151,312	▲ 36,010	
備考	物件費の主な内訳は指定管理委託料である。物件費及び補助費等の差額は、新型コロナウイルス感染症による減収損失補填を令和3年度においては指定管理料として増額したことが主な要因である。行政収入のその他は、駐車場の賃料収入等である。								

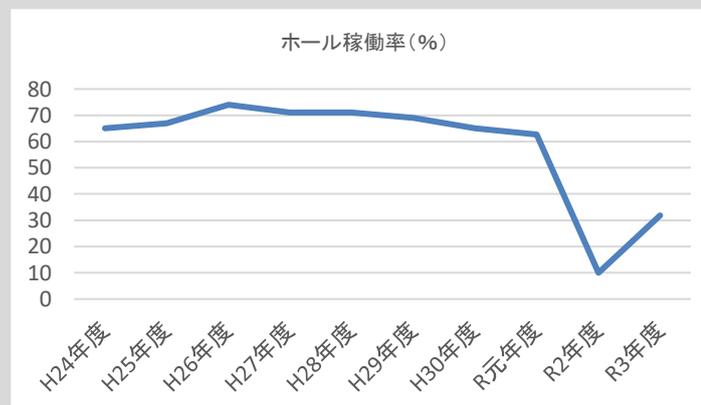
指標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	81.0	84	86.4	89.1	89.1
	1㎡当たりコスト(円)	41,796	44,979	58,390	60,169	60,169
	人にかかるコストの割合(指定管理)(%)	46	52	56.6	55.5	45.8
	受益者負担比率(%)	37	33	14	18.5	29.3
	開館1日当たりコスト(円)	269,838	289,582	375,922	387,373	387,373
	利用者1人当たりコスト(円)	687	722	7,870	2,935	1,987
	区民1人当たりコスト(円)	447	479	621	640	640
備考	3年度は、前年度と比較して新型コロナウイルス感染拡大の影響が落ちついたため、稼働率が上昇し、開館1日当たりのコスト、利用者1人当たりのコスト、区民1人当たりコストが前年度に比べ減少した。					

IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名:)					
目標指標	指標名・単位	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度(見込み)
	利用人数	目標値 72,000	72,000	7,200	50,000	145,000
		実績値 140,554	143,985	17,149	47,387	70,000
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()					
管理形態の変更の推移	● 有 (変更内容: 平成1年度:荒川区地域振興公社へ運営委託、平成18年度:指定管理者制度導入) ○ 無					
利用者・地域のニーズ	施設利用者へのきめ細やかな対応					
現状・課題	○開館から31年を経て、施設全体の老朽化が目立ち始めているため、適切な保守により維持管理に努める必要がある。修繕の実施にあたっては、指定管理者とホテルラングウッドとの連絡・調整が必要である。 ○利用者から日々寄せられる多様化するニーズへの対応が求められる。 ○新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、適宜、適切な制限等を検討・実施しながら、安全・安心に利用できる環境を整える必要がある。					
課題に対する現時点での考え	○関係部署や施設と調整し、今後の修繕計画について検討する。 ○利用者ニーズに柔軟に対応していけるよう、指定管理者と施設管理やサービス向上策について緊密な連携を図っていく。 ○コロナ禍にあわせた施設稼働率の向上及び利用者数の増加に向けた取り組みを指定管理者と協議・検討していく。					
議会、利用者等からの意見						



令和2年度は、緊急事態宣言による施設の休館等があったため利用人数は減少したが、令和3年度は感染状況の改善等に伴い、増加に転じた。



令和2年度は、緊急事態宣言による施設の休館等があったため稼働率は減少したが、令和3年度は感染状況の改善等に伴い、増加に転じた。